

令和2年度第2回 釧路市地域ケア会議 委員からのご意見の集約結果

ご意見

処遇困難ケースの対応では、ほぼ全ての包括に精神疾患、認知症が根本にあるケースの個別相談があり、それぞれ関係機関にも加わってもらい課題に取り組んでいるところですが、地域のケアマネジャーはあまりそのことが知られていないように感じます。同じような課題が地域にあるのなら、釧路市全体のケアマネジャーにも共有し、学びあう機会や、包括の活動を知ってもらうことはいかがでしょうか。

コロナ禍で会のあり方、開催方法なども模索していると思います。少人数での開催などで検討してはと考えます。ICTの活用、ACPへの取組重要だと思います。

地域ケア会議資料から、課題が「介護」の枠を超えていることが強く伝わりました。従来の解決方法とは違う発想を得るため、広く市民にも身近で起きていることを伝えていくことも必要なのでは、と思いました。団体への伝達もおこなうようにしていきます。

資料7の(3)生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進、②地域に必要なサービスの創出の項目に「リハビリテーション専門職等と連携し…」との記載がありました。言語聴覚士会としても、口腔フレイル予防など重要課題と位置付けており、地域の中でその役割を担えるよう準備していきたいと考えております。

この1年、医療従事者という立場もあり、地域に向けた取り組みや会議への参加をほとんど取りやめていました。先日久しぶりに包括主催のケア会議に参加しましたが、あらためていろんな立場の方が職種を超えてアイデアを出し合うこと、つながることの大切さを実感したところです。最近は認知症が疑われる方の問題だけではなく、その家族（働き世代や若年世代）が他問題を抱えているケースが増えており、病気や入院によって問題が浮き彫りになる人も増えています。医療機関の役割は重要だと思いますので、今後も包括をはじめとした関係機関の協力を得ながら対応していきたいと思います。